

**製品名: AIFM1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21174**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:67kD;Observed MW:67kD

**抗原情報**

遺伝子名	AIFM1
別名	AIFM1;AIF;PDCD8;Apoptosis-inducing factor 1;mitochondrial;Programmed cell death protein 8
遺伝子 ID	9131.0
SwissProt ID	O95831
免疫原	ヒト AIF の合成ペプチド

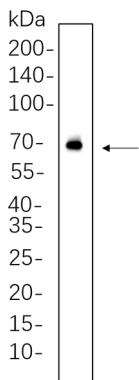
**背景**

細胞局在: ミトコンドリア膜間腔。ミトコンドリア内膜。細胞質。核。細胞質、核周縁領域。ミトコンドリア膜間腔 (IMS) への移行中または移行直後のタンパク質分解による切断により、内膜アンカー型成熟型 (AIFmit) が形成される。アポトーシスの過程では、さらなるタンパク質分解処理により成熟型となり、可溶性型 (AIFsol) としてミトコンドリア IMS に局在する。AIFsol は特定の細胞死シグナルにตอบสนองして細胞質に放出され、核に移行して核アポトーシスを誘導する (PubMed:15775970)。核および核周縁領域で EIF3G と共局在する (PubMed:17094969)。[アイソフォーム 3]: ミトコンドリア膜間腔。ミトコンドリア内膜。アイソフォーム 1 よりも強い膜固定を有する。[アイソフォーム 4]: ミトコンドリア。細胞質、細胞質ゾル。アポトーシス促進状態では、カルパイン/カテプシン依存的にミトコンドリアから細胞質に放出される。[アイソフォーム 5]: 細胞質。この遺伝子は、アポトーシス細胞の核分解に必須のフラビントタンパク質をコードしており、健康な細胞のミトコンドリア膜間腔に見られる。アポトーシスが誘導されると、このタンパク質は核に移行し、染色体の凝縮と断片化に影響を与える。さらに、この遺伝子産物は、ミトコンドリアにアポトーシス誘発性タンパク質であるシトクロム c とカスパーゼ 9 の放出を誘導する。この遺伝子の変異は、重篤なミトコンドリア脳筋症である複合型酸化リン酸化欠損症 6 (COXPD6) や、神経障害、軸索障害、運動感覚障害、難聴、精神遅滞を伴うカウチョック症候群 (X連鎖劣性シャルコー・マリー・トゥース病 4 (CMTX-4) としても知られる) を引き起こす。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じる。関連する偽遺伝子が染色体上に同定されている。

## 研究分野

-

## 画像データ



Jurkat 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜を AIFM1 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。